

## 1. 目標

### 【現状】

- ▶山形県は全域が豪雪地帯に指定される全国でも屈指の豪雪県であり、冬期間は積雪、路面の凍結、雪崩の発生によって、渋滞や交通事故、道路の通行止めが発生している。そのため、雪に強い道路網の整備が求められている。
- ▶県土の85%が山地である山形県においては、道路網が脆弱で、一部が崩壊するだけで孤立地域や広域迂回が発生しやすい。そのため、災害が発生する恐れがある箇所の対策が求められている。

### 【目標】

- ▶雪害や災害に強く誰にでも使いやすい道路で地域やまちを支え、安全で快適な暮らしをまもる県土づくりを行うため、道路危険箇所等における防雪施設や災害防除施設等の社会資本整備を推進する。



雪崩による通行止め



法面崩落による被災

## 2. 事業の内容

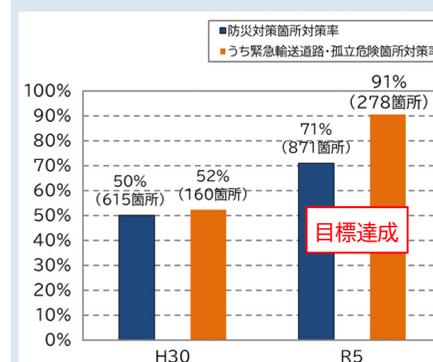
- ▶事業の期間：平成30年度～令和4年度(5年間)
- ▶事業の主な内容
  - 基幹事業：防雪柵等の設置、落石・崩落危険箇所の法面对策、除雪等
  - 関連事業：無し
  - 効果促進事業：無し
- ▶事業実施主体：1県、13市、19町、3村
- ▶全体事業費：75,002(百万円)

## 3. 事業による成果

◆防災総点検の要対策箇所1,227箇所の対策状況は、H30年度に615箇所だったのが、R4年度末では目標の740箇所に対し871箇所まで目標を達成した。

◆そのうち緊急輸送道路や孤立の可能性の高い地域の防災対策箇所の要対策箇所307箇所の対策状況はH30年度に160箇所だったのが、R4年度末では目標210箇所に対し278箇所まで目標を達成した。

計画の成果目標



「防災対策箇所1,227箇所に対する対策率」及び「うち緊急輸送道路や孤立危険箇所307箇所に対する対策率」

## 4. 評価と今後の対応

緊急輸送道路・孤立の可能性の高い地域などの要対策箇所における防災対策を着実に実施し、県内各地で自然災害に対する安全性を確保することができた。

ただし、R6.7月豪雨にみられるよう、本県でも気候変動の影響等により激甚な気象災害が頻発していることから、今後の要対策箇所の取り組みにおいても、国の強靱化予算を活用しながら、自然災害等における突発的な事象等に対して柔軟に対応し、安全で快適な暮らしを守る県土づくりに貢献できるよう取り組みを推進する。

計画の成果目標	H30	R4
防災対策箇所の完了箇所数	615	740
うち緊急輸送道路や孤立の可能性の高い地域の防災対策箇所数	160	210

※防災総点検において要対策箇所1,227箇所のうち、落石・岩盤崩壊・雪崩等の優先対策箇所を抽出

## 5. 整備効果事例

### 【事例①】防雪柵の設置

3-A230 主要地方道新庄戸沢線 名高工区 (山形県事業)

至 鮭川村



戸沢村  
名高 地内



事業延長0.3km

至  
新庄市

出典:国土地理院HP



整備前

▶地吹雪による視界不良、吹き溜まりにより、対面交通の確保が困難な状況



整備後

▶防雪柵の設置により、地吹雪を軽減

#### 【地域の声】

・地吹雪が緩和され、冬期間に安心して自動車の運転ができる。(地域住民)

### 【事例②】落石防護柵の設置

3-A018 主要地方道藤島由良線 油戸工区 (山形県事業)

至 酒田市

事業箇所



鶴岡市  
油戸 地内



事業延長0.25km

至 新潟県村上市

出典:国土地理院HP



整備前

▶既設の落石対策のさらに上部より落石が頻繁に発生し、危険な状況



整備後

▶恒久的な対策となる落石防護柵を設置した。通行車両等の道路利用者の安全を確保。

#### 【地域の声】

・頻繁に落石があり、天候不良の際には通るのに不安な思いをしていたが、対策後は安心して通行できるようになった。(地域住民)